

2023 年度 学校法人 三幸学園 福岡医療秘書専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 本多 未佐・村上 陽香

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

学生募集

前年度同様、来校型に加え、オンライン型の2パターンのオープンキャンパスを展開した。

来校型では、本校の魅力の一つである「教員と学生の距離感の近さ」を意識して打ち出したが、動員数は前年度より減少した。オンライン型においても、ZOOMを使った生配信も行ったが、動員が減少した。

また遠方の学生への対応として、九州各地での出張オープンキャンパス開催や ZOOM を使用した個別相談会も実施した。その他にも高校で開催される学校説明会にも積極的に参加した。

SNS による発信は毎日実施し、内容も毎月検証するなど、より強化した。行事や授業内容、学生の様子など学校生活がよりイメージできるような内容を投稿した。

該当者は少なかったが教材実習費の支払いが困難な学生に対する支援・サポートは今後の課題となった。

中学生への職業体験の参画の機会も増えたため、今後も増やしていきたい。

学生指導

医療校人材育成方針「相手のこうしてほしいを理解し考え動ける人材を育てる」に基づき学生指導に取り組んだ。その中で「教科指導（技術）」「生活指導（心）」を大きな2つの柱とした。

「教科指導（技術）」においては、検定合格率の向上に向けて検定 week を実施し、校内系にも掲示することでモチベーション向上や雰囲気づくりに努めた。

学校専用アプリの SANKOGATE を活用したテストの実施、対面授業ではロールプレイやグループワークも取り入れた。

「生活指導（心）」においては、クラス内で一人一役を取り入れ、学生全員が活躍できる場を設けた。また年々、学生の多様化もあり、スクールカウンセリングの活用も多くなったため、より一層一人一人に合わせた対応や早めに異変に気づき対応することを心掛ける教務となった。

行事に関してはコロナ前に戻すだけでなく、コロナ渦で得た方法を活かした新たな行事運営となった。

就職先への連携

どの分野においても求人数の推移が減少した。そのため、「キャリア支援の強化」として、校内での就職ガイダンス、医療機関の方に面接していただく模擬面接会などの学びの機会の提供だけでなく、卒業生の在職する医療機関への電話がけや就職先希望調査、面談の実施等、一つ一つ丁寧に行っていった。「対外活動の強化」として福岡市のボランティア活動を増やした。就職ガイダンスや行事を通して卒業生講話を実施。

課題でもあった就職後の安定を目指し、就職前のインターンシップを取り入れたことで学生と就職先のミスマッチを防げた。また卒業生の就職定着を調査したことで、卒業生の状況把握だけでなく、求人開拓にもつながった。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・各業界に沿った「相手」のこうして欲しいを理解できる人材を育成するとともに、医療や福祉に携わる者として相手を尊重し、寄り添うことができる人材を育成する。
- ・社会および業界のニーズの把握を強化し、教育内容に反映し、継続して学生へ指導していく。

② 今後の改善方策

- ・卒業生が働く施設や実習施設への訪問を強化し、日ごろの教育の課題等を把握し、学生の将来像をイメージしながら実際の指導に結び付ける。
- ・医療事務育成にあたり、福岡県医師会にご協力をいただき、医師が求める事務職の資質について理解、および、指導を深める。
- ・介護の業界の変化をタイムリーに把握するために、自治体との意見交換会や団体の主催する研修及び学会には積極的に参加する。

③ 特記事項

- ・人材育成像を全教室に掲示し見える化した
- ・スタートアッププログラム（新入生研修）や学校生活でのクラス目標設定とあわせて、クラスの中での自分の役割を考える機会とするために、1人1役の委員を設定した。
- ・新入生の保護者向けにオンライン保護者説明会を実施し、学校の教育理念・人材育成像・学科ごとのスケジュールを知ってもらう機会を作った

（診療情報管理士科）

- ・新入生保護者説明会内で認定試験の内容と合格に向けた３年間のカリキュラムについても説明した。
- ・授業内容として病院受付をイメージしたシミュレーション型授業を取り入れた。

（介護福祉科）

- ・福岡市のオレンジパートナーズに参加し、さまざまな団体や企業とともに、地域での認知症の方の暮らしをささえるミーティングに継続的に出席した、その経過でできるだけ学生にもボランティアとして参加させた。また、学生が地域で何が出来るかを考え、地域の方に向けて発表する機会を創ったことで、社会が自分達に何を求めているかを感じることができる機会となった。

（２）学校運営

【評価項目】（評価＝適切：４、ほぼ適切：３、やや不適切：２、不適切：１）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	４
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	４
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	４
人事、給与に関する制度は整備されているか	４
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	４
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	３
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	４
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	４

① 課題

- ・社会貢献、SDGsへの学生主体の取り組み
- ・省エネに関する取り組み
- ・コンプライアンス研修の継続的な実施

② 今後の改善方策

- ・自治体との連携、地域から必要とされる学校運営
- ・新人事制度の導入（２０２４年度より）

③ 特記事項

- ・就業規則、職員行動指針を設定し、年度ごとに改定している。内容については職員会議で共有している。
- ・インフォクリッパーによる学生情報のシステム化を行い、教務に関わる教務事務についても研修を行った。
- ・継続的に、ノー残業デーを、年度初めに設定することで、ワークライフバランスや業務効率化の意識を高める
- ・プリント配布していた資料を学校アプリでの発信することでペーパーレス化に取り組んだ
- ・教員全体の働きやすい職場づくりを目的に、年次に関わらず意見交換ができるグループワークを取り入れた。
- ・教職員向けコンプライアンス研修の実施

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・ICT 教育において、授業の実施は以前に比べると定着しているが、より授業の質を向上する。
- ・学生への実践的な職業教育を行うためにより一層産学連携を強化する。
- ・学び方の違いについていくことが困難な学生について、環境の設定の工夫を行う。
- ・もっと学びたいという意欲の高い学生についても、さらなる上位資格や関連分野の資格を取得できるような機会を創出し、取得できるようサポートもしていく。

② 今後の改善方策

- ・現場と連携し卒業生を講師として採用し、現場の状況、学生時代の話をしてもらうなど学生のキャリアイメージやモチベーション向上につなげる。
- ・現場及び関係各所へのボランティアやインターンシップの機会を積極的に行い、タイムリーに学生へ伝達する。
- ・オンラインで行われている教員向けの研修などには積極的に参加し、教授手法の技術を幅広く習得する。同時にオンライン授業見学ができる環境を整える。
- ・カリキュラムの一環で現場の方と連携し、行事だけでなく、授業や就職面接指導にご協力いただく。

- ・関連団体との連携を強化し、オンラインを利用し講話を実施する

③ 特記事項

教員の指導力アップ研修、Z世代に関する研修を全体会議で対面で実施した。

- ・教員の指導力育成の研修を自由にいつでも受けられるよう、オンデマンド研修を学園アプリにより共有した。
- ・全学生に対する認知症サポーター養成講座の開催
- ・資格取得に向けて、教員間での情報共有及び学生に合わせた細かなサポートを実施し、診療情報管理士認定試験及び介護福祉士国家試験ともに合格率100%を達成することができた。

(診療情報管理士科)

- ・新カリキュラムに伴う施設基準管理士認定試験の実施（任意検定）
- ・卒業生講師、卒業生担任を配置予定

(介護福祉科)

- ・産学連携による講話の実施

理学療法士による車椅子フィッティング、施設職員による看取りや認知症対応についての講義

認知症フレンドリーセンターでの研修や当事者の方との交流会

介護ICTの進んでいる施設での見学や体験

- ・実際の現場でのボランティア活動

認知症の方へのスマホ教室開始

歌劇ザレビューでの認知症の方の観劇サポート

小学校での認知症サポーター養成講座のお手伝い

ラン伴(認知症啓発活動)への参加

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率低減に向けた取り組み
- ・卒業後のキャリア形成について情報収集の実施

② 今後の改善方策

- ・退学率低減のために入学時から保護者との連携を強め教員間でも連携したサポートを行っていく。

- ・多様な学生に対して、多様な学びのスタイルを提供できるよう環境を整えていく
(週4日登校、オンライン授業の活用、ほっとルーム設置)
- ・目標喪失の傾向がある学生に対して、キャリア探求活動(現場経験)を設ける。
- ・継続して各種教育アンケート(授業・実習・卒業生)を実施し、課題発見と具体的な施策検討を進める。
- ・求人や実習先の新規開拓と共に就職先が求める人材像の把握のため教職員の積極的な医療機関、施設、園への訪問、ヒアリングを実施。
- ・卒業生の同窓会サイトの活用。

③ 特記事項

- ・学科毎のチーム制とし、学科会議の時間を設け、学科内の学生共有を行い、教員間の連携を強めた。
- ・学生の学校生活満足度や集団について問う「ハイパーQU」の実施を行い、タイムリーな学生指導を行った。
- ・具体的な結果は以下の通りである。

2023 年度進路決定率:診療情報管理士科業界内就職率 100%

介護福祉科業界内就職率 100%

2023 年度退学率:全体 6.9% 診療情報管理士科4名(5.4%) / 介護福祉科4名(8.9%)

2023 年度資格取得率:診療情報管理士認定試験合格率 100%

介護福祉士国家資格合格率 100%

(診療情報管理士科)

- ・2 年終了時に希望職種、希望エリア調査をし、担任と地区担当とでダブルサポートを行った。
春休みから就職活動を行った。卒業生講師から在学時の就職活動の話をしてもらった。

(介護福祉科)

- ・介護業界に就職することに悩んでいる学生に対して、担任と就職担当のダブルサポートとし、一人一人の就労希望の条件や施設を丁寧にヒアリングして就職先を決めていくことができた。
- ・入学後に業界に魅力を感じずに、進路変更をしてしまう学生に対して、学校の中だけでの指導に限界を感じている。(施設と連携した働きかけ)

(5)学生支援

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3

中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

・通信制高校や既卒入学者の増加により、生徒の多様性や、世代の価値観理解等の必要性が高まっている。

・卒業生や中途退学者への支援体制づくりについて、社会のニーズに合ったものを行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

・卒業生の同窓会 LINE の活用

・引き続き、新卒 1 年目の悩みを聞く機会を作り、母校に行きたいと思える支援づくり

・スクールカウンセラーの活用方法の検討

③ 特記事項

・新卒 1 年目の悩みを話せる機会となるよう、2022 年度卒業生の同窓会を校内で実施した

また、その際にホスピタリティをテーマとして、マナーの講師より講話を実施した。

・保護者の学校理解がさらに進むよう、新入生への保護者説明会を学科ごとにオンラインで実施した。

(診療情報管理士科)

・入学後、進級後に面談を実施。場合によっては保護者へも連絡してサポート体制を整えた。

(介護福祉科)

・経済的支援として、学園オリジナルの奨学金制度等の案内を積極的に実施したことで、入学することができた学生がいた。

・中途退学者へのサポートとして、教育クリエイトの介護関係の研修の紹介や実習施設への就職紹介などを行った。

(6) 教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・新規実習先の開拓及び、実習内容のすり合わせ。

・安全点検防災訓練の実施

② 今後の改善方策

・新規の実習先の実習内容を確認し、事前の現場との打ち合わせや学生へのアフターフォローも徹底する。

③ 特記事項

- ・校内の Wi-Fi を全教室に設置し、全館で学生も教員も使用できている。
- ・全体用には SANKO GATE(学生・教員向け連絡用アプリ)、個々のクラスには GoogleCLASSROOM(クラス管理アプリ)と使いわけ、緊急の連絡網だけでなく、授業にも活用している。
- ・全教室に避難経路マップを掲示し、年度初めに避難経路、避難場所の確認を行っている。
(診療情報管理士科)。
- ・一部授業に電子書籍を導入し、Manamo(書籍アプリ)を活用して授業を展開している。
(介護福祉科)
- ・学生のテキストは電子書籍を導入し、Manamo(書籍アプリ)を活用して授業を展開している。
- ・介護実習室には最新の介護ロボット機器を導入し、眠りスキャンなどを整備し、授業や学生募集に活用している。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を常に意識し、高校生・社会人・留学生等の多様な学びのニーズに応え、学校経営の基盤となる学生募集に尽力していく。留学生の受け入れも引き続き積極的に行い、介護人材不足に対応できる学校となる。
- ・学生募集活動の早期化＋長期化。様々な学校を見て進路を決めている傾向があり長期化している。

② 今後の改善方策

- ・近年は学費支払いが困難である事を理由に進学を辞退する学生も多くなっている為、特に保護者様に対して入学説明会やパンフレット等を通じ明確な学費サポート体制や学納金の総額をわかり易く伝える事に努めていく。
- ・今後は、グローバル化の世情と学びのニーズに対応すべく、留学生の受入体制も構築していく。

③ 特記事項

- ・学校生活の様子が伝わるSNSの発信。
- ・中学生対象の職業体験を積極的に参画し、キャリア教育にも関わる。
- ・高校生の保護者向けに学費説明会の実施。
- ・2024 年度の入学者数
診療情報管理士科 36 名(昨年度 32 名)

介護福祉科

28 名(昨年度 25 名)※日本人のみ

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・自己点検/評価は学校関係者評価委員会を通じて、問題点の明確な洗い出しと具体的な改善策を検討する。

② 今後の改善方策

- ・法令/コンプライアンスの遵守と個人情報の保護・管理の徹底に努める。
- ・個人情報取り扱いの為の同意書の記入と個人情報管理の徹底の周知を職員会議等で行い、教職員の意識向上に努める。

③ 特記事項

- ・学園全体で法令/コンプライアンスの遵守と個人情報保護・管理に対する職員向け研修の実施
- ・実施結果は学校ホームページ等を通じ評価の公開を実施していく。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献の提案、企画。
- ・ボランティア活動について積極的に情報を収集するとともに、学生が主体的に学びと連動できる機会をさらに設けていく。

② 今後の改善方策

- ・引き続き地区行事への参加、地域への教室の貸し出しに協力する。
- ・市町村および関連企業様との連携やボランティア活動の情報収集を強化しながら、地域の活性化と貢献度向上に繋がる教育活動をさらに広げていく。（学科を超えた情報公開）
- ・在校生と卒業生が一緒に参加できる地域貢献の機会の創出。

③ 特記事項

- ・博多区まちづくり推進委員会主催のクリーンデイへの参画
- ・福岡市と連携し、認知症の方の「歌劇ザレビュー」観劇のサポートボランティアを実施。
- ・ラン伴（認知症啓発活動）への卒業生・在校生合同での参加。
- ・認知症の方へのスマホ教室の実施。（学生主体）

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(本多さん)

・本多副校長

学校も企業と同じで選ばれる時代。「聞いていない」「知らない」からできないではなく、学園の教育目標に合った人材育成をしていく。心が折れる学生が去年は多かったので、今年度はそこを支えるサポート体制を作っていきたい。